

ペルラッハの長屋 ミュンヘン ドイツ

1997年視察

この長屋を企画し、実際に自分でも住んでいるトゥート夫人に、ご自宅の内部まで見せていただきながら開設していただいた。トゥートご夫妻はお二人とも建築家で、夫人は大学で教鞭をとるプロフェサーである。

この長屋のテーマは幾つかある。

①技術（特に木造の）住民各位がどんな風にこの長屋を使うか？

各々が自分の好みで作ったものが、全体としてどんなデザインになるのか？それは実験的なことだった。

②各人が果たしてDIYで建てられるだろうか？

③6家族の共用部分のメンテも含め、親密なコミュニケーションが必要。この事を考慮してサンルームは各戸の仕切がなく、繋がっている。外のデッキも平面で繋がっている。

④ソーラーエネルギーをどう利用するか？

この長屋は1975年に計画し始め78年に完成した。その頃ドイツ全土で太陽熱利用は全くといってよいほどなかったが、ここではパッシブソーラーにトライしている。また、地下室はつくらず、日本と同じように床下部分をつくり、風を床下からとるような工夫もしている。

当初、太陽熱温水機も設置する予定だったが、まだ製品も珍しい頃で、施工も慣れておらず、完成した時の冬は寒い冬で、面倒になって設置するのをやめてしまった。しかし、当時の製品は単独でしか動かないものだったから設置しなくてよかった。今では、家全体の給湯と結び付くものが出ている。従って、この長屋のソーラー利用はパッシブ利用だけである。

・この長屋の建設にあたっては6家族ともに若い夫婦だったので、ローコストで作りたいたいと思いき木造にした。しかし、ドイツでは長屋で木造は許可されなかった。しかたなく法の抜け道を見つけて木造にした。

・木造軸組造にしてことで、間仕切りをフリーにでき、ライフスタイルに合わせた可変空間が作れることになって、二重に有利になった。こうした軸組みの可変性や床下の利用など、日本の建築から学んだことが少なくないとトゥート夫人はいう。

・20年間、6世帯の住人は変わっていない。

・各ユニットは135㎡で、当時の建設費は1000マルク/㎡だった。このコストは一般の住宅に比べると50~60%だった。



これがDIYでつくった長屋？よく見るとペアガラスを金具で留めただけだったりしてDIYの片鱗が見つかる



室内は本棚や家具で仕切られているだけ。



サンルームは6軒仕切がなく繋がっている。



共通のデッキがよい公園空間をつくっている。